



もうすっかり日が暮れるのが早くなり、とても寒い日が続いていますね。

～本で心をあたためる！～

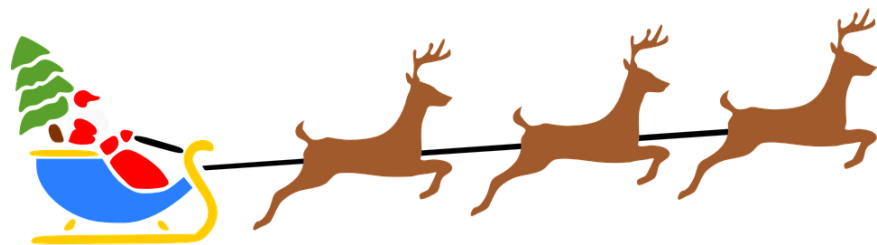
読書すると、いいことがいっぱいあります。読んでいる本の世界に没頭することでリラックス効果が得られたり、普段の生活で溜まってしまったストレスを解きほぐす力があるそうです。寝る前や空いた時間に、やさしくてあたたかい本を読んで、この冬を乗り切りましょう！！

・・・この冬に読みたい本・・・

『クリスマス・キャロル』

ディケンズ 著 村岡花子 訳 新潮文庫

この物語の主人公スクルージは、冷酷で貪欲な高利貸しのおじいさんです。取引先の商人や街中の皆からも嫌われています。クリスマスイブにスクルージが仕事を終えて家に帰ると、そこには死んだはずの仕事仲間の姿がありました。スクルージは彼らに呼び出された3人の幽霊たちに、自分の過去・現在・未来の姿を順に見せられ、次第に改心していく・・・という話です。



図書委員のおすすめ本

『青の炎』 貴志祐介 著 角川書店

この小説の主人公である櫛森秀一は、湘南の高校に通う17歳です。秀一は女手一つで家計を担う母と、素直で明るい妹との三人で暮らしています。その平和な家庭に、母が十年前に再婚しすぐに分かれた曾根が現れました。曾根は秀一の家に住居し、傍若無人に振る舞い、母だけでなく妹にまで手を出そうとしました。警察も法律も家族の幸せを取り返してはくれないことを知った秀一は、自らの手で曾根を殺害することを決意します。

この作品は、章の始まりや途中に挿入される心理描写や比喻を使っている点、登場人物の気持ちが細かく表現されており緊張感や空気が伝わってくる点が素晴らしいと思います。すごく描写が明確なので、感情移入がしやすいと思いました。主人公が高校生で、すごく読みやすいミステリー小説だと思うので、ぜひ読んでみてください。

館内の展示コーナーです。

今回のテーマは「一年の最後に読みたい本」。
今年話題を集めた本、映像化された本、
そして図書委員がオススメする本を集めました。

